

[021]九州大学総合研究博物館ニュース

<https://doi.org/10.15017/1434367>

出版情報：九州大学総合研究博物館ニュース. 21, pp.1-8, 2014-03-31. 九州大学総合研究博物館
バージョン：
権利関係：

The
Kyushu
University
MuseumNo.21
News

九州大学総合研究博物館ニュース

椎木講堂で九州大学百年の至宝展開催

3月に伊都キャンパスの椎木講堂が完成し、25日に行われる九州大学卒業式、修了式から正式な利用が始まる。椎木講堂は、ギャラリー・展示スペース・ホワイエ・ガレリアという4種類の展示空間を備えており、講堂のオープン記念し、ギャラリー・展示スペースを利用して、【九州大学百年の至宝展】を開催する事になっている。乞うご期待!!

総合研究博物館第7代館長 吉田 茂二郎



12月7日の式典。左から吉田茂二郎九大博館長、南薫小の生徒3名、井口科学館館長。

I

平成25年度九州大学総合研究博物館公開展示 ミュージアムバスの世界

開催期間:2013年12月7日(土)～2014年1月7日(火) 場所:福岡県青少年科学館1階特別展示室

担当: 中西 哲也 分析技術開発系・准教授

学外の博物館と連携して毎年開催している当館の公開展示を、今年度は久留米市にある福岡県青少年科学館1階特別展示室にて行いました。

「ミュージアムバスの世界」と題して行われた、今回の展示では、平成24年度に月替

りで西鉄路線バスの車内広告欄を学術標本ポスターで埋め尽くし、好評を得た「九州大学ミュージアムバスプロジェクト」の標本ポスターと解説チラシを活用し、ポスター写真の元になった学術標本と組合わせた展示を行いました。鉱物、植物、昆虫

標本約100種類およそ1000点を展示し、期間中約7200人が会場を訪れました。

会場では、一切の解説パネルを使わず、標本ポスターと実物標本で展示を構成し、それぞれのポスターが、標本のキャプションの役割を果たしました。訪れた人からは、

(p.2へ続く)



催事・展示クローズアップ

《p.1から続く》

「写真が綺麗かねえ」「実物はどれやろか」「キャッチコピーが面白かねえ」等の声が聞かれ、標本ポスターと実物の両方を相互に楽しんで頂きました。詳しい解説は、各コーナーのリーフレットを手にしてもらい、12月21、22、23日には、専門の教員によるギャラリートークを開催しました。会期中会場では、数多くの質問が出され、Q&Aコーナーに質問と



入口から見た動物の展示

回答を貼り出しました。また、クラフトコーナーでは、オリジナルのゾウムシペーパークラフトを配布し、多くの子供達がかんぼって作成していました。意外だったのは、昆虫標本を見て「これ、偽物でしょ?」と言う子供が複数いたことです。ホンモノを見る事の大切さを改めて認識しました。

今回は福岡県南部で初の九大博物館展示でしたが、「また開催してほしい」との要望を多数



貴重な昆虫標本も展示

頂きました。福岡都市圏に限らず、より多くの人々に九大の標本を見ていただく機会を、今後も作りたいと思います。

II アートパフォーマンスライブ おらしおーいのりの祭典ー

期間：2013年11月2日(土)、3日(日)
場所：総合研究博物館第一分館倉庫
主催：Selbst(ゼルブスト)
共催：総合研究博物館

主担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授
副担当：舟橋 京子 開示研究系・助教

博物館や実習工場そして移転への思いに関するやりとりを何度も経て、宮原氏を中心とするSelbstが、第一分館の鑄造

実習室、中庭、機械工場に独創空間を創りだしました。中庭では、メンバーの徳永氏による、灯明と鑄造器具を組み合わせたインスタレーションが幻想的な雰囲気醸し出し、それに至る鑄造実習室では、当館から工学部鉱山資料のカンテラコレクションを展示しました。公演では、独創的な自作の衣装に身を包んだパフォーマー達が、工作機械ともからみつつ、今は静である場に秘められている躍動を生き生きと体現してくれま



© Kaz Tsurudome
幻想的な雰囲気の会場

した。柔らかながらも素早い動きで錯綜し、時としてゆるやかに、「何か」が紡ぎだされているかのようなダンスの後、後半には柳氏によるライブペインティング、



おらしおフライヤー

山内氏によるサクソ演奏が織り込まれ、飽きる事のないパフォーマンスが繰り広げられました。お手伝いに来ていた西南学院大学の卒業生・学生の方々が、その後当館のアルバイトに来てくれるようになったという、うれしい展開もありました。

III ようきんしゃったねー「大学は宝箱!ー京都・大学ミュージアム連携出開帳 in 博多」への共催と出展

期間：2013年10月8日(火)~26日(土)
場所：九州産業大学美術館
主催：京都・大学ミュージアム連携実行委員会
主担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授
副担当：舟橋 京子 開示研究系・助教

「京都・大学ミュージアム連携」の出開帳ということで、京都の15大学博物館から

77点が来福、これに九州産業大学美術館、西南学院大学博物館、佐賀大学美術館、そして当館からの6点を加え、それぞれの大学のカラーが際立つユニークな展覧会となりました。テーマは「手技の競演/大学ミュージアムの競演」。九州大学からは、手技の光る学術資料として、医学部皮膚科所蔵ムラージュと、当館所蔵の瓦経をそれぞれ1点づつ出展しました。九州大学

ならではの学術資料として、美術工芸的な展示物が多い中で異彩を放っていました。



会場の九州産業大学美術館の入口

Close-up Event & Exhibition

IV 特別展示「九州大学 教育・研究の最前線」

期間：2013年10月18日(金)～11月17日(日)

場所：箱崎キャンパス 旧工学部本館他

担当：福原 美恵子 総合博物館・研究支援推進員

特別展示「九州大学教育・研究の最前線-第12回P&P研究成果一般公開-」では九州大学の学内助成であるP&P(九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト)に採択された研究の成果をかみ砕き、わかりやすく展示いたしました。また今回は、九州大学ホームカミングデー・アラムナイフェス2013(10月19日)の日程にあわせて開催し、箱崎キャンパスを懐かしと思う方々および近隣の方にも見学いただきました。旧工学部本館の歴史ある建物を散策しながら、



九州大学の最先端の研究の一端にも触れることが出来る一日になったと思います。

V 世界一行きたい科学広場

期間：2013年9月22日(日)

場所：イイヅカコミュニティセンター

主担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授

副担当：松本 隆史 開示研究系・助教

イイヅカコミュニティセンター(飯塚市立飯塚図書館)で毎年行われている科学イベント「世界一行きたい科学広場 in 飯塚」に、昨年度に引き続き出展しました。今回の九大博物館ブースは「よく見てスケッチ・ためして標本」というタイトルで、研究の基本である観察と標本作りの体験を題材にしました。動物の頭骨や貝の標本から、子供たちが好きなものを選んで、細部を観察してスケッチをしたり、教員の指導のもと、屋外で採取した植物を、電子レンジや半田ごて



お気に入りの標本を選んでスケッチしています



会場の様子

を使って標本にしたりしました。また、博物館と芸術工学部で開発したAR(オーグメンテッドリアリティ)技術の

iPadアプリで、動くコウモリやキツネなどのCG骨格標本をいろいろな向きから観察し、それぞれに共通する骨の部位や動物ごとの形の違いを学びました。当館以外にも、地元の高校や大学による様々なサイエンス体験コーナーが出展し、多くの地元の子供たちが訪れ大盛況でした。

VI 椎木講堂での初展示【九州大学百年の至宝展】の開催

期間：第1期 2014年 3月25日(火)～ 5月 2日(金)

第2期 2014年 5月12日(月)～10月 3日(金)

第3期 2014年10月14日(火)～11月25日(火)

土・日・祝日休館

場所：伊都キャンパスセンターゾーン椎木講堂

担当：吉田 茂二郎 総合研究博物館長

椎木講堂が、この3月にオープンする。このオープンに先立ち、椎木講堂のギャラリー、展示スペース、ホワイエ、ギャラリーという4種類の展示空間について展示方針の検討を行った。

椎木講堂は、伊都キャンパスのセンターゾーンに位置し、全学の学生が集う【知】の拠点となることが期待される。その特性を活かし、講堂内部に展示スペースを設け、九州大学の歴史や特筆すべき教育・研究の成果を展示し、学生ならびに教職員の知的好奇心を刺激することを通して、講堂の設立理念を実現するものとする。

その展示スペースは、オープンスペースとして学外にも公開し、一般市民に本学の教育・研究の成果や歴史の一端に触れる場とすることで、大学と社会を結び、一般市民の知的欲求を満たし、かつ本学への



理解や支援を得るために役立つ。

初回の展示となる「九州大学百年の至宝展」の企画・実施では、実行委員会において当館が中心的役割を担った。この展示は、九州大学の750万点以上におよぶ貴重な標本・資料の中から、インパクトのある【内容】と講堂の展示スペースに見合った【量】を厳選・構成したものとし、将来の総合的な展示施設の充実・拡大への導入的なものと位置づけている。

Series : Courses Related to the Museum

シリーズ・大学博物館の授業紹介

その2：全学教育

博物館への招待

岩永 省三 一次資料研究系・教授

当館は、通常の博物館業務のみならず、九大における学生・院生の教育にも大いに貢献してきました。理学部・文学部で開講する学芸員資格関係授業を主体的に担っているのは勿論として、学部生向け授業も担当していますし、館員それぞれが最も関係深い大学院の兼任教員となって高度な研究を担える大学院生の養成を進めています。しかしながら、九大学生の多くが大学博物館の存在を知らず、一回も当館に来たことがないまま卒業していく残念な現状を何とかしたいと考えてきました。そこで伊都キャンパスで行われている全学

教育科目として、本年度から、「博物館への招待」を開講することにしました。大学入学まで博物館・美術館と縁遠かった新入生諸君に、膨大な量の学術標本・資料とそれらに基づく研究成果を公開する「知の殿堂」としての博物館の

魅力を紹介し、学術標本・資料に興味関心を持ち、博物館そのものに理解と愛着をもつ人材を少しでも多く社会へ送り出そうというわけです。

授業では、当館の教員が、博物館の役割や歴史、様々な資料の研究法と最新成果を興味深く論じたほか、現場での実践経験豊富な学内外の先生方に講師をお願いし、博物館の見方、楽しみ方、活用法を伝授しました。レポートを見ると、興味関心が広がった学生が多かったようで、科目開講の甲斐があったと思っています。この授業で取り扱った題目は以下の通り多岐に渡りました。



様々な学部から多くの学生が受講しました

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 10月 2日：岩永 省三「ガイダンス」 | 様々な学部から多くの学生が受講しました |
| 9日：岩永 省三「博物館概説」 | |
| 16日：中牟田 義博「博物館で見る地球・惑星の姿、隕石と鉱物展示」 | 12月 4日：後小路 雅弘（人文科学研究院）「『アジア美術館』の誘惑」 |
| 23日：前田 晴良「化石化のメカニズムを探る」 | 11日：脇山 真治（芸術工学研究院）「展示映像と博物館への応用」 |
| 30日：舟橋 京子「博物館における古人骨資料」 | 18日：中西 哲也「鉱山と博物館－世界と日本の鉱山をめぐる－」 |
| 11月 6日：三島 美佐子「戦前から近年に至る九大植物標本の活用
－学術利用から近年の展示および市民参加型調査まで－」 | 1月 8日：吉田 茂二郎「農学部と博物館」 |
| 13日：竹田 仰（長崎総合科学大学）「美術館への誘い」 | 15日：丸山 宗利「昆虫の多様性」 |
| 20日：伊原 久裕（芸術工学研究院）
「『物』のない博物館－オートー・ノイラートの展示活動」 | 22日：末廣 香織（人間環境学研究院）「九州大学の建築資産」 |
| | 29日：松本 隆史「インタラクティブ・ミュージアム・プロジェクト」 |

COLUMN

館内探訪

動物骨の掃除作業

担当：丸山 宗利 開示研究系・助教 舟橋 京子 開示研究系・助教

1月上旬に昨年度農学部より移管されました旧畜産学第二講座の加藤嘉太郎教授(1905-1996)が集められた骨格標本のうち、一部の頭蓋骨の掃除作業を行いました。

実際の作業は関西の自然史系博物館で骨格標本の整理事業に携わっている藤田美美さん・浜口美幸さんを中心に当館の丸山助教が手伝いをするという形で作業が行われました。

展示に使用しやすい頭蓋骨を中心に、表面の汚れを歯ブラシ・歯間ブラシ・水・薬品などを使って綺麗に掃除していただきました。動物たちの顔も心なしかさっぱりしたように見えます。

まだ移管された資料の全ての掃除は終わっていません。今後も継続して定期的に掃除を行う予定です。綺麗になった獣骨を是非来館者の

方に実際に触れていただけるような展示を行いたいと考えています。



綺麗にクリーニングされ乾燥待ちの獣骨

Series : Museum Jobs from A to Z

シリーズ・大学博物館のお仕事紹介

九州大学歴史的備品再生プロジェクト

木質系什器類の収集・保存ならびに再利用を図る全学的な取り組み

吉田 茂二郎 総合研究博物館長

2011年で創立百周年をむかえた九州大学内には、創立当時の木質材料で作られた什器(家具)類(執務机、椅子、テーブル、実験台、本棚等)が数多く残っている。多くは現在も利用されており、中には現在では入手困難な材料で、かつその製造が困難か、可能でも非常に手間のかかる貴重なものが数多く含まれているにもかかわらず、これまでのキャンパス移転ではその多くは廃棄され、スチール製の机やテーブル等を購入するケースがほとんどであった。そこで、農学部と博物館では、既存の木質製品を系統的に収集・分類し、研究に役立てるとともに、修復を行って可能な限りそのまま伊都キャンパスで継続的に利用すること、あるいは少なくともキャンパスアート等のメモリアル材料として再利用することで、移転に伴う大量廃棄によるCO₂の大量発生

を少しでも抑えることが出来ると考え、この取り組みを数年前から進めている。

取り組みのきっかけは、筆者は世界自然遺産に登録されている屋久島の



工学部の移転時に博物館が収集・保存した教官用机

ヤクスギや日本初の国立公園の霧島地区のモミ、ツガそしてアカマツの天然林を対象に、それらの貴重な森林を後生に引き継ぐための森林管理について、長年、調査・研究を行って

いる。その中で、ヤクスギ林では1000年を超える個体、霧島ではモミ・ツガの約400年、アカマツでは約250年前後の個体は、どれも太さ(直径)が1mを超えたものが多く、その圧倒的な大きさをいつも感じながら調査を行っている。個体の大きさと年数の多さは、私にとって神に通ずるものである。年輪を重ねた木材も、私にとっては森林と同じ存在であり、樹木が生育した期間は法隆寺の

五重塔のように少なくとも利用したい、これが私の信条である。

手始めに、農学部に残っている木質家具の調査を行った結果、農学部が発足した大正8年4月つまり約90年以上前のものも含



修復によって蘇った農学部の教官用机

まれており、しかも当時は、無垢の材料を使う工法が用いられ、それには当時存在した樹齢が少なくとも100年は超えている木が利用されていることがわかった。

以上の試みを、博物館として全学に広めようと

している。これまで、医学部と理学部でも呼びかけを行い、今後も文系地区での呼びかけを計画中である。これらの呼びかけによって、今後、大量の木質什器が出てくると考えられるが、この一部については修復を行い、新キャンパスで再利用することを考えている。しかし、実際に修復を考えると、その修復ができる技術者それも相当数の人数が必要であるが、それには全国的に有名である大川家具の職人さんたちとの関係を作って、これに対応している。取り組み初めて数年が経過し、軌道に乗ってきた現在、この取り組みを九大独自のものとして、強力に押しすすめる予定である。みなさまのご理解とご協力をお願いしたい。

COLUMN

博物館連携

福岡ミュージアム連絡会議発足!

担当: 松本 隆史 開示研究系・助教 三島 美佐子 開示研究系・准教授

福岡市には魅力的なミュージアムが沢山あります。このたび、福岡市美術館・福岡アジア美術館・福岡市博物館・福岡県立美術館・福岡市埋蔵文化財センター・「博多町家」ふるさと館・はかた

伝統工芸館・王貞治ベースボールミュージアム・九州産業大学美術館・西南学院大学博物館・三菱地所アルティムと、当館の計12施設で、福岡の都市全体でミュージアム活動を推進

していくための「福岡ミュージアム連絡会議」が始まりました。例年、福岡市では、国際博物館の日(5月18日)にちなんで、福岡ミュージアムウィークを開催しています。2014年は5月17日から25日を予定しており、当館も初参加予定です。一丸となって、福岡にお住まいの皆様にも、国内各地・世界各国からお越しの皆様にも楽しんでいただける企画をつくって参ります。



福岡のミュージアムめぐりをしてませんか?(福岡市パンフレット)

シリーズ・九大博物館での研究の紹介

科学研究費補助金による研究:その8

金平亮三の教育研究史—標本コレクションと大学文書からの精査

研究代表者: 三島 美佐子 九州大学総合研究博物館

研究分担者: 折田 悦郎 九州大学文書館

連携研究者: 松村 順司・吉田 茂二郎 九州大学大学院農学研究院



中央図書館5階にある標本室の、金平コレクションが収められた木製棚。



果実標本が多いことは、金平コレクションの特徴の1つ。



ラベルからいろいろなことがわかります。

金平亮三は、1920年代～1940年代中盤まで活躍した林学者で、台湾総督府などを経て1928年に九州帝国大学教授、第二次大戦中はインドネシアのボゴール植物園ハーバリウム長、戦後はGHQの天然資源局に在職しました。台湾時代の樹木研究や九大時代の南洋群島調査が高く評価されています。現在九州大学農学部が所蔵し、当館がデータベース化や資料整理をお手伝いしている、金平の押し葉や果実など標本約1万点は、著名なコレクションとして世界的に知られています。その反面、金平その人の人物像や研究史については、あまり明らかではありません。日本の分類学の研究史や人物史は北村(1990)によって

まとめられていますが、金平の履歴や主な文献出版等が6ページにわたり時系列で列挙されているにとどまっています。金平の死去からすでに半世紀以上が経過し、実際の金平を知る人が年々少なくなる中で、急ぎその業績と貢献を再評価し記録しておくことは、植物の分類学史・林学史上重要です。同時に、金平の辞令や、金平をはじめとする当時外地を往来した九大教官の出張記録などの大学文書を精査することで、当時の日本の社会情勢と大学の教育研究史との関連において新たな発見の可能性がります。

本研究は、以上のような動機を背景として、金平の研究史とその意義を明らかに

しようとするものです。金平が務めた台湾の林業試験場、金平の重複標本が保管されていると考えられる台湾大学、金平がハーバリウム長を務めたボゴール植物園などと連携し、情報ポータルと標本のデータベースを構築することも大きな目的のひとつです。現在は、基礎資料の収集と、台湾での現地調査、そして金平が収集した腊葉標本の平面画像と果実標本の立体画像の電子化をすすめています。特に後者では、九州国立博物館のご協力を頂き、X線CTスキャナを用いた3Dデータ化をすすめており、当館骨格標本の3D化(博物館ニュースNo.17, p.7参照)に続くものとなっています。

(基礎研究C:一般 平成25年～27年度採択) 文責・三島美佐子

COLUMN

これも博物館のお仕事

海外ミュージアム調査

担当: 松本 隆史 開示研究系・助教 三島 美佐子 開示研究系・准教授

各教員の専門分野では常に海外とのやり取りがある当館ですが、博物館全体としても展示や教育プログラムを国際化していくことが大事な課題です。今年度は、欧州スペインバルセロナ、米国

カリフォルニア州ベイエリアに赴き、ミュージアムの専門家らに展示や教育プログラムに関するヒアリングを行いました。スペインでは、バルセロナ自然史博物館、コスモカイヤ、バルセロナ大学パーチャ

ルミュージアム担当、米国では、カリフォルニア大学バークレー美術館・パシフィックフィルムアーカイブ、サンフランシスコ大学ミュージアムスタディーズプログラム、エクスポラトリウム、サンノゼチルドレンズディスカバリーミュージアムなどを訪れ、担当者や意見交換を行いました。特に体験型展示には優れた理念・設計のものも多く、また各館の特色あるプログラムから学ぶ事が多くありました。



カリフォルニア大学 Berkeley Art Museum and Pacific Film Archive



Series : Research at the Kyusyu University Museum

特別寄稿

手つかずの展示映像の記録と保存～映像研究の空白地帯

脇山 真治 九州大学大学院芸術工学研究院・教授 専門：マルチ映像、展示映像、プレゼンテーション

『日本と日本人』という映像作品がある。これは1970年に開催された大阪万博の日本政府出展＝日本館で上映された8面マルチ映像作品である(図1)。監督に市川崑、脚本は谷川俊太郎、音楽は山本直純という最高のスタッフを擁して製作された。

上映時のスクリーンサイズは48m×12mになり、使用されたフィルムは35mmダブルフレーム(1コマの大きさは通常の劇場映画のフィルムの2倍)で当時の最新の国産技術を使ったものである(図2)。

博覧会や展示会、あるいは博物館のために製作される映像を総じて「展示映像」という。ことに国際博覧会のような大規模イベントでは世界初、日本初、史上最大などをうたうため撮影から

上映にいたるシステムは独自に開発されるものが多く複雑になる。そうして数カ月の開催期間が終了すると博覧会場は更地となり映像を含め展示物の多くは廃棄されてきた。いわば時限催事の宿命である。

先の『日本と日本人』も同様の運命をたどり、国際フィルムアーカイブ連盟の

2007年東京大会では「(フィルム等の資料は)一切残されていない」と報告された。ところが筆者の調査により2013年6月に製作会社とは無縁の東京都内の民間倉庫において、この作品のフィルム原版を発見し43年間奇跡的に保管されていた

しない。貴重な映像遺産として次世代のために残さねば、イベントの終了と同時に消滅してしまうという危機的な状況が続いている。

映画は国立フィルムセンターを中心に組織的なアーカイブを行っているが、展示映像にまで手が回らないのが実情である。

私たちがなすべきは展示映像に関する上映記録映像、写真、企画書や設計図書等の文書資料、フィルム、音声、制御機器、などを総合的に保存し、常時アクセスと擬似的な再現(デジタル)をも見据えたアーカイブに一刻も早く着手すべきと考える。世界的にみても展示映像は保存の規定も実績もないが、今回の『日本と日本人』のフィルム原版の発見を契機に九州大学総合研究博物館がその

嚆矢として問題提起することを願っている。(本調査は平成24年-26年度科学研究費補助金による研究の一環として実施した。)

上段、左：図1) 8面マルチ映像のスクリーン配置(模型)

／日本館VIPパンフレットより転載

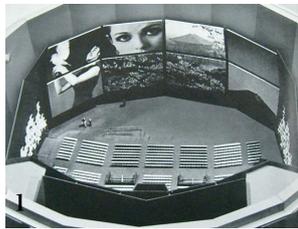
上段、右：図2) 日本館における上映風景

／日本貿易振興会※『日本館運営報告書』より転載

下段、左：図3) 発見した24巻のフィルム原版／筆者撮影

下段、右：図4) フィルムの保存状態はおおむね良好／筆者撮影

※現 日本貿易振興機構



ことを確認したのである(図3、図4)。

展示映像は時代の最先端の技術とコンテンツでありながら、劇場映画のような「国際標準」がなく、映像、音響、特殊効果、複合演出などシステムが非常に複雑であるため保存されることはほとんどなかった。すでに散逸、廃棄されれば研究対象としても成立

COLUMN

学内連携

九大の博物館は、スゴかった！

担当：河野 文香 人間環境学府・人間共生システム専攻・修士1年 柿添 翔太郎 理学部・生物学科・3年

はじめまして。九州大学広報室学生スタッフです。運営するFacebookにおいて、博物館の特集を10月よりさせて頂きました。九州大学の魅力を発信する時に、最も面白い資料とは

何だろう？と考えた結果、博物館だ！と行き着き、取材依頼をさせて頂きました。取材を通していく中で、博物館には多彩かつ豊富な資料がある事や、先生方の研究への熱意を知り、

「博物館は予想以上にスゴイ！もっと魅力を知ってほしい！」という気持ちが強くなりました。実際に博物館に行くと、意外な展示との出会いがあったり、展示物のスケールの大きさに驚いたり、ワクワクでいっぱいだと思います。皆さんも是非足を運んでみてください！

学生スタッフFacebook:
(<https://www.facebook.com/KyushuUniv.Student>)



丸山宗利先生(昆虫学)との取材風景。

Support to the Museum Activities

博物館へのサポート

九州大学総合研究博物館活動充実基金を設置しました

九州大学は明治44年に創立し、100年以上にわたって世界第一級の教育・研究と診療活動を展開して参りました。平成12年には総合研究博物館が設置され、長い教育・研究・医療の歴史の中で収集された貴重な標本・資料を管理し、新たな教育・研究へ活用するために尽力しております。

現在、九州大学は先進的な伊都キャンパスへ

の移転の最中であり、当館も伊都キャンパスで博物館建物の建設を実現すべく、様々な努力をしております。おかげさまで、地域の皆様、国内外の専門家の皆様、そして、九州大学の関係者・卒業生の皆様のご支援により、当館の



研究教育活動も順調に発展し、設置15周年を目前にして、これからキャンパス移転完了後を見据えた、新たな活動が本格化して参ります。

このたび九州大学総合研究博物館では、活動充実基金を設置し、当館の教育・研究の更なる発展のため、皆様からのご寄付をいただけるようになりました。当基金へのご寄付は、博物館活動をさらに充実させるとともに、新たな博物館建物の建設を実現する為に必要な諸事業に活用いたします。なお、当基金(国立大学法人九州大学)への寄付金は、税法上の優遇措置が受けられる場合があります。

当基金へのご寄付の方法や詳細については、博物館事務室までお問い合わせください。(電話:092-642-4252)

Activities of Exhibitions & Conference

展示・講演会関係の活動状況

公開展示

- 「ミュージアムパスの世界
-九州大学標本・資料を魅せる-」
期間:平成25年12月7日(土)
~平成26年1月7日(火)
場所:福岡県青少年科学館
入場者数:7,180人

共催展示

- ようきんしゃったねー
「大学は宝箱!」
-京都・大学ミュージアム連携出展 in 博多-
期間:平成25年10月8日(火)
~10月26日(土)
場所:九州産業大学美術館

特別展示

- 第12回P&P研究成果一般公開
「九州大学教育・研究の最前線」
期間:平成25年10月18日(金)~11月17日(日)
場所:箱崎キャンパス旧工学部本館3階
入場者数:208人

博物館施設一般公開

- 九州大学ホームカミングデー
&アラムナイフェス2013
期間:平成25年10月19日(土)
場所:箱崎キャンパス
入場者数:83人

特別企画

- アートパフォーマンスライブ
「祈りの祭典 おらしお
-カラダが動けば機械も踊る-」
期間:平成25年11月2日(土)~3日(日)
場所:九州大学博物館第一分館
主催:Selbst(ゼルプスト)
共催:総合研究博物館

シンポジウム

- 「サイエンス・コミュニケーション時代の
科学館リニューアル -特に教育普及活動と
地域ネットワークの視点から-」
期間:平成26年3月6日(木)
場所:福岡市中央区 天神ビル

出展

- 世界一行きたい科学広場 in 飯塚2013
「よく見てスケッチ、ためして標本」
期間:平成25年9月22日(日)
場所:飯塚市イゾココミュニティセンター

サテライト巡回展示

- 糸島地区サテライト
平成26年 3月 7日(金)~福岡県の蝶4~6
- 福岡空港サテライト
平成26年 1月17日(金)~福岡県の蝶1~3

運営委員会

- 平成25年 9月27日(書面回議)
- 平成25年 9月30日(書面回議)
- 平成25年 10月31日(書面回議)
- 平成26年 2月 3日(書面回議)

団体見学

- 平成25年 10月19日 九州大学ホームカミングデー
&アラムナイフェス
- 平成25年 11月 7日 福岡市九大跡地計画課
- 平成25年 12月 4日 帝京大学博物館準備室
- 平成25年 12月26日 東京工業大学
- 平成26年 2月 5日 静岡県企画広報部
- 平成26年 2月12日 対馬市教育委員会
- 平成26年 2月17日 山口大学情報環境部
- 平成26年 3月 3日 國學院大学博物館学研究室